

日蓮大聖人御書全集

ときどのごへんじ

富木殿御返事

しよてんかご

ゆえん

こと

（諸天加護なき所以の事）

ときどのごへんじ

しよてんかご

ゆえん こと

富木殿御返事（諸天加護なき所以の事）

ぶんえい ねん がつ にち

文永 9 年 ('72) 4 月 10 日

51 さい ときじょうにん
富木常忍

ごへんじ

御返事

にちれん

日蓮

がもく いんずう

た そうら お

おんこころざしもう つ

鵝目、員数のごとく給び候い了わんぬ。御志申し遂く

がた そうろう

し難く候。

ほうもん

せんど

しじょうさぶろうざえもののじょうどの

しよじ

法門のこと、先度、四条三郎左衛門尉殿に書持せしむ。

しよ よ よ ごらん

きょうもん かんが み

その書、能く能く御覧あるべし。ほぼ経文を勘え見るに、

にちれん ほけきょう ぎょうじや

うたが

いま てん

日蓮、法華経の行者たること疑いなきか。ただし、今に天

かご こうむ

いち

しよてんぜんじん

あつこく

さ

ゆえ

の加護を蒙らざるは、一には、諸天善神この悪国を去る故か。

に ぜんじん

ほうみ

あじ

ゆえ

いこうせいりよくな

さん

二には、善神、法味を味わわざるが故に威光勢力無きか。三

だいあつき

さんるい

しんちゆう

い

ぼんでん

たいしやく

ちからおよ

には、大悪鬼、三類の心中に入り、梵天・帝釈も力及ば

とう

いちいち

しやうもん

どうり

お

しん

お

そうろう

ざるか等、一々の証文・道理、追つて進ぜしむべく候。

しやうがい

もと

おも

き

お

いま

ひるがえ

ただし、生涯、本より思い切り了わんぬ。今に翻反るこ

な

うえ

いこんな

もろもろ

あくにん

ぜんちしき

と無く、その上また遺恨無し。諸の悪人はまた善知識なり。

しやうじゆ

しやくぶく

にぎ

ぶつせつ

よ

しきよく

ばんじ

摂受・折伏の二義、仏説に任る。あえて私曲にあらず。万事、

りやうぜんじやうど

ご

きやうきやうきんげん

靈山浄土を期す。恐々謹言。

うづきとおか

にちれん

かおう

卯月十日

日蓮

花押

ときどの

土木殿

にちれん

りんじゆういちぶん

うたが

こうべ

は

とき

日蓮が臨終一分も疑いなし。

頭を刎ねらるるの時は

こと

きえつあ

そうろう

だいぞく

あ

だいぞく

ほうしゆ

か

おも

殊に喜悦有るべく候。大賊に値つて大毒を宝珠に易うと思

うべきか。